

保育ブロック緑化工法

保育ブロック緑化工法は土や堆肥、粘土などを混ぜ合わせ、筒状に成形した土壌ブロックで栽培した保育ブロック苗を使用する植栽工法です。保育ブロックの筒の中（貫通穴）に種を播くことで、保育ブロックを植物の「生育基盤」として利用します。種を播き、育苗したものを保育ブロック苗と呼びます。



▲ 保育ブロック苗の特徴 ▲

① 山地保全機能の向上

天然木の根系は直根を重力方向に、側根を水平方向に広範囲に伸長します。伸長した天然木の根系は隣り合う木々の側根が交差することにより、ネット構造と呼ばれる立体的な根系を形成し、高い土壌緊縛力を有します。保育ブロックで生育させた苗木は、直根が土壌ブロックの貫通穴に誘導されて、天然木と同様の根系を形成します。

② 緑化困難地での活着率の向上

保育ブロックの高い保水性と養分の集中的な投下により、根系の初期成育が促進され、苗木の活着率が向上します。

③ 通年施工が可能

保育ブロック苗は理想的な団粒構造を有するため、保水性に優れ、乾燥期の枯損を減少します。

④ 生育速度の向上

従来のポット苗と比較して、根茎のルーピング障害が生じず、生育が旺盛です。



■保育ブロック成形機製品規格



保育ブロック成形機

成形機 形状・寸法	
高さ	75cm
幅	27cm

ブロック 形状・寸法	
保育ブロック直径	7cm
保育ブロック高さ	14cm
貫通穴直径	3cm

※仕様及び外観は製品改良のため予告なく変更されることがあります。

※上記は標準仕様です。導入する植物により仕様は異なります。

■保育ブロック苗の生産方法

① 用土攪拌



② 保育ブロック成



③ 播種



④ 覆土



⑤ 養生



⑥ 完成



① 用土攪拌

土+粘土+堆肥+肥料を十分に攪拌したのち、適量の水を加え、再度攪拌する。

② 保育ブロック成型

成形機に用土を充填し、成形したのちに乾燥を行う

③ 播種

保育ブロックの貫通穴に土を詰め、播種する。

④ 覆土

保育ブロックに覆土を行う。

⑤ 養生

全面にマルチングを行い、寒冷紗で覆い乾燥しない程度に散水を行う。

⑥ 完成

オーバル株式会社

[本社] 〒478-0017 愛知県知多市新知字下森86
TEL.0562-55-2252
FAX.050-3457-8490
Mail info@oval-gr.com

[刈谷工場] 〒448-0006 愛知県刈谷市西境広見36

販売代理店